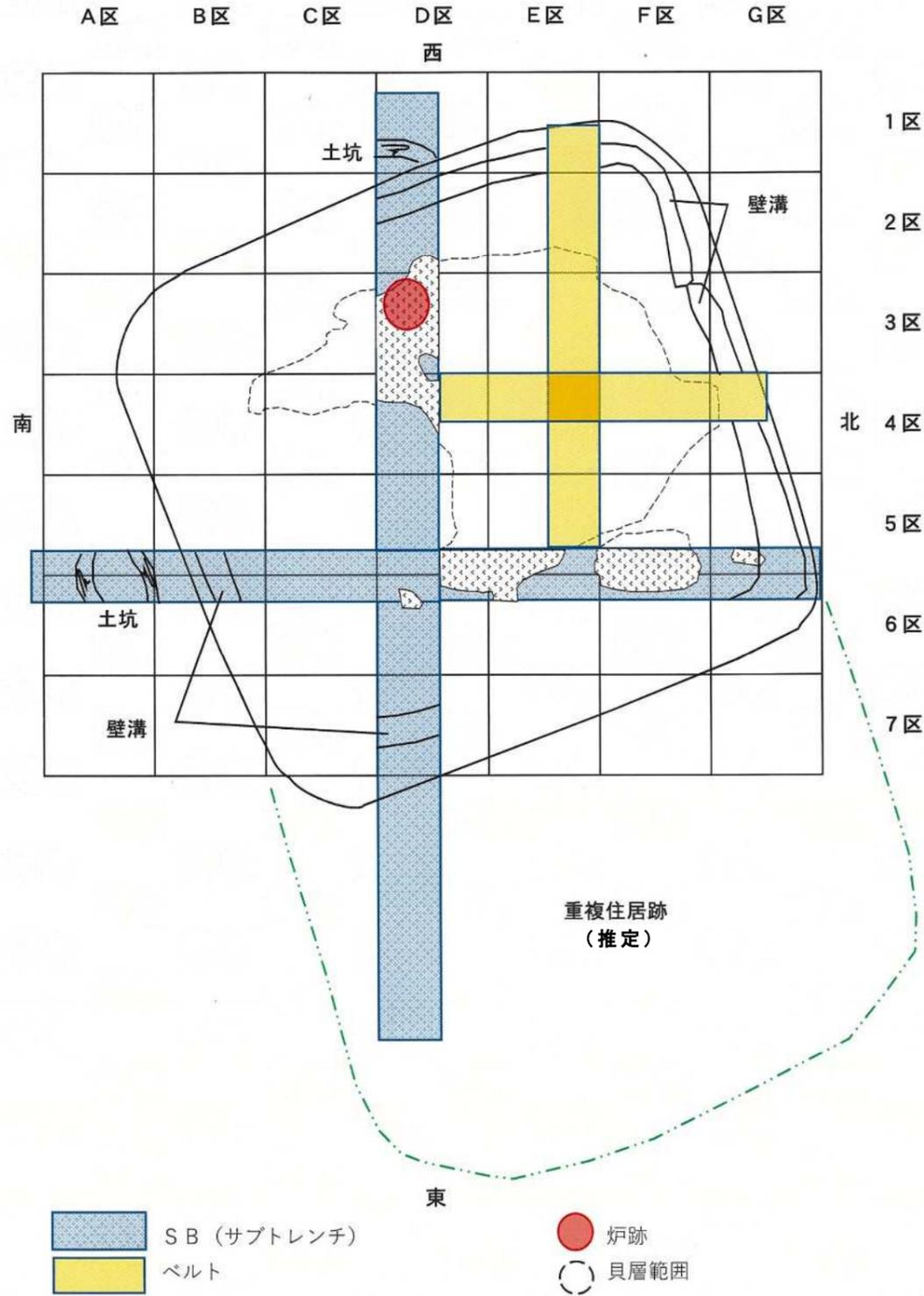


水子貝塚R6地点住居跡(18J)の概念図



令和6年度

史跡水子貝塚 発掘調査現地説明会資料



今回の調査では、貝塚から何が
出てくるかな？



【史跡水子貝塚の沿革】

明治 27 年 (1894)	阿部正功によって発見
大正 6 年 (1917)	安倍立郎によって『日本石器時代人民遺物発見地名表』で紹介される。
昭和 13 年 (1938)	第 1 次調査
昭和 14 年 (1939)	第 2 次調査
昭和 42 年 (1967)	第 3 次調査
昭和 44 年 (1969)	国史跡に指定
昭和 52 年 (1977)	第 4 次調査
昭和 59 年 (1984)	第 5 次調査
平成 2～4 年 (1990～1992)	第 6 次調査
平成 6 年 (1994)	水子貝塚公園オープン
令和 6 年 (2024)	第 7 次調査

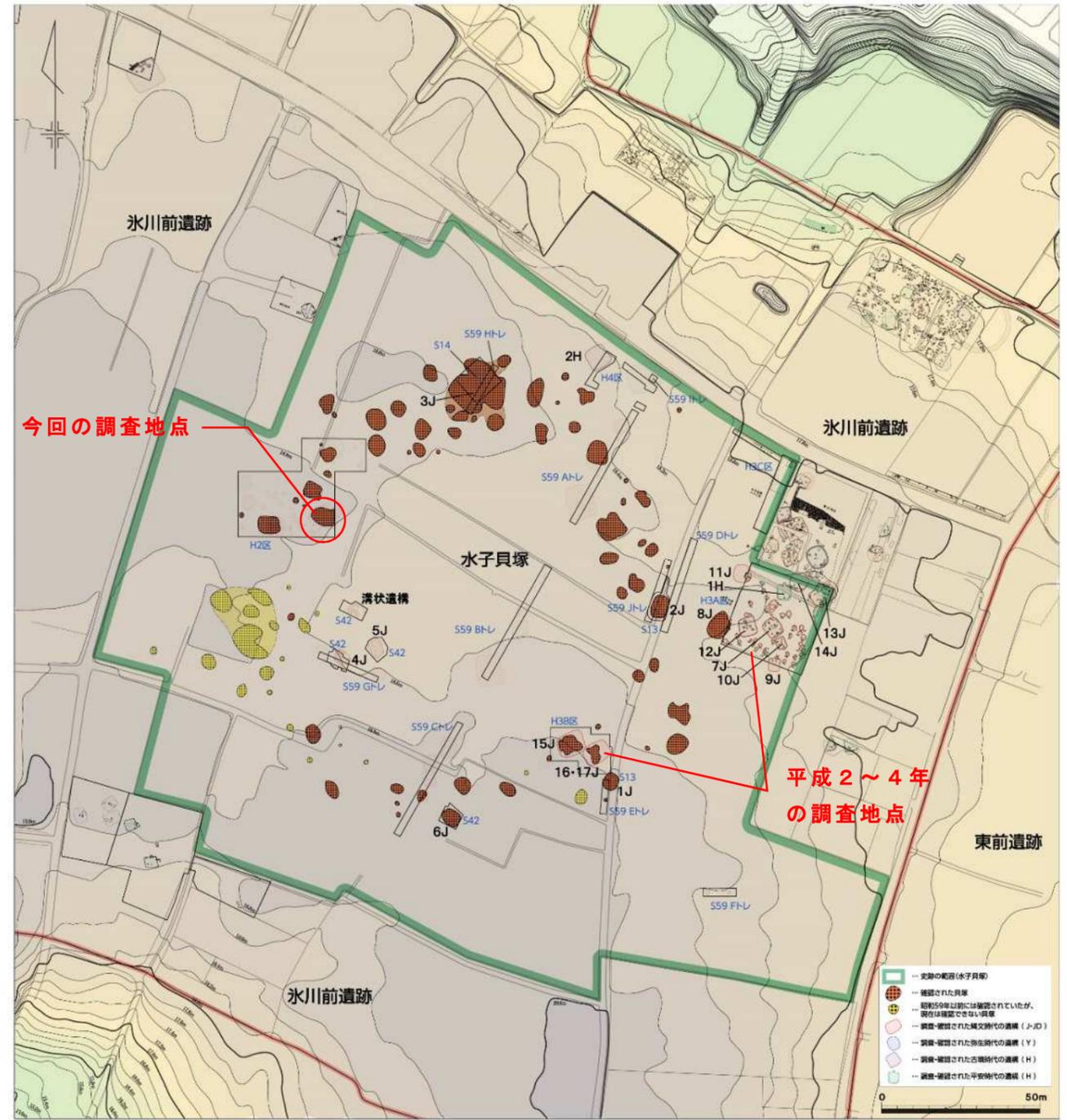
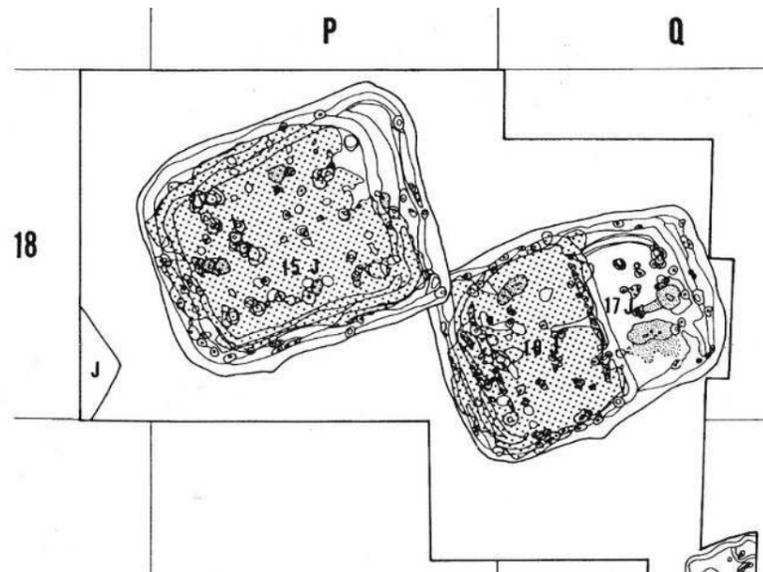
【平成 2～4 年度の調査】

平成 2 年から 3 か年計画で、史跡整備に伴う資料の収集を目的とした発掘調査を実施。史跡の西側で遺構確認を行い、縄文時代前期黒浜式期の住居跡 2 軒、古墳時代の住居跡等が確認されました。

現在の水子貝塚展示館建設予定地の発掘調査を実施し、縄文時代前期黒浜式期の住居跡 1 軒、諸磯式期の住居跡 5 軒、中期加曾利 E 式期の住居跡 2 軒、平安時代の住居跡 1 軒などが発見されました。

また、史跡南部（現在の 15 号復元住居跡周辺）で、黒浜式期の貝塚を伴う 2 軒（15 号住居跡・16 号住居跡）の住居跡の調査を実施しました。

15 号住居跡からは多量の土器や石器などの資料のほか、埋葬された人と犬の骨も発見され、水子貝塚を理解するうえでの貴重な資料を得ることができ、展示館の展示に反映されています。



【令和 6 年度に発掘調査を実施するに至った経緯】

史跡水子貝塚では、平成 6 年度に「縄文ふれあい広場 水子貝塚公園」としてオープンして以来、30 年が経過しました。経年による施設の劣化、樹木の高木化、展示内容の固定化など様々な課題が浮上してきました。

そこで、水子貝塚を適切な状態で保存管理し、観光資源や地域資源として積極的に活用するため、文化庁調査官や史跡水子貝塚保存整備委員会にご意見を伺いながら、将来の再整備を見据えた史跡水子貝塚保存活用計画を令和 4 年度に策定しました。

令和 5 年度には、史跡水子貝塚整備基本計画を策定し、令和 6 年度に新たな資料や発掘成果の追加を目的に、発掘調査を実施することとなりました。発掘調査の範囲は、住居跡の 4 分の 1 として、文化庁に現状変更届を提出し許可を得ました。